

～ 幸区の大規模災害発生時における帰宅困難者対策の取組について ～

2011.3.11 区内各駅・各所で帰宅困難者発生

幸区…震度5弱 首都圏の交通機関運休⇒約515万人の帰宅困難者発生
 川崎駅周辺…3,000人超が市要請施設へ避難
 ▶幸区内では「川崎市産業振興会館」を開放
 鹿島田駅・新川崎駅周辺…近隣小学校を避難場所とし急遽開放。約60人が避難
 その他 区内駅・企業等においても多数発生



川崎市直下の地震(M7.3)の被害想定

幸区⇒震度6以上、場所によっては震度7
 ●川崎駅前滞留者数 19,128人
 ●川崎駅以外の区内各駅でも3.11を上回る数
 ●都内、横浜市内からの徒歩帰宅者も多数発生(国道1号線沿線等)

幸区災害対策ネットワーク協議会の設置(H24年12月)
 (現在の幸区災害対策協議会)

幸区帰宅困難者対策ネットワーク協議会の設置(H25年3月)
 (現在の幸区災害対策協議会帰宅困難者対策部会)

●「顔の見える関係」による連携体制づくり
 ●想定シミュレーションによる対応策の協議・検討 の推進



川崎駅西口バスロータリー

目標⇒ ●駅周辺滞留者の安全確保及び混乱の抑制
 ●徒歩帰宅者に対する適切な情報提供

3.11の教訓から課題を抽出し、地域特性を踏まえた対応策について協議・検討

- ① 帰宅困難者対策ネットワーク協議会の設置
- ↓
- ② 「地域防災シミュレーション」の作成及び内容確認
- ↓
- ③ ②による現状の把握及び課題の抽出
- ↓
- ④ 対応策の協議・検討による行動ルールの策定
- ↓
- ⑤ ④に基づいた取組への着手及び訓練の実施
- ↓
- ⑥ 行動ルールの検証、取組及び改善点等の抽出



◎ 発災時における協議会の連携による、帰宅困難者への的確かつ迅速な対応の実現

幸区地域防災シミュレーション

主に発災後2日間、概ね1ヶ月後までの被害状況、区災害対策本部、避難所の対応
 帰宅困難者への対応、JR・交通事業者の対応についてシミュレーション
 ○川崎市直下の地震M7.3発生 ⇒ 幸区の震度6以上、場所によっては震度7
 ○季節⇒冬 天候⇒晴れ 発災時刻⇒11時24分(昼前)
 ○幸区における死者数⇒156人 建物全壊⇒4,649棟

⇒協議会構成メンバーによる内容確認 及び 課題等の抽出

課題

1 帰宅困難者の発生が想定される主な箇所

- ①JR川崎駅(西口) ②JR鹿島田駅及びJR新川崎駅 ③国道1号線沿線

2 帰宅困難者が発生した場合の課題

- ① 情報共有・伝達方法
- ② 鉄道以外の交通機関からの帰宅困難者への対処
- ③ 徒歩帰宅者への対処
- ④ 停電時における各事業所の対応
- ⑤ 代替収容施設の確保、近隣避難所との連携
- ⑥ 災害時用備蓄物資等の調達

これまでの取組

- 1 「幸区における大規模災害発生時における帰宅困難者対策のための行動ルール」を作成
 ⇒ 川崎駅周辺だけでなく、鹿島田駅・新川崎駅周辺及び国道1号線沿線における対応を想定した。
- 2 鹿島田駅・新川崎駅周辺及び国道1号線沿線における帰宅困難者対策訓練の実施
 ⇒ 部会構成員が関係機関・団体と連携し、情報伝達の体制や帰宅困難者一時滞在施設への誘導、一時滞在施設の開設・運営などに係る実働訓練を実施し、課題の抽出を行った。

今後の取組

平成27年度の取組

- 1 幸区災害対策協議会帰宅困難者対策部会の開催
 - ・年4回(7月・9月・1月・3月)開催予定
 - ・その内、9月開催時に「新川崎駅・鹿島田駅周辺帰宅困難者対策訓練」、3月開催時に「国道1号線沿線帰宅困難者対策訓練」を実施予定
 - その他、11月に「市内主要駅周辺帰宅困難者対策訓練」を実施予定
- 2 上記1の訓練の検証等による
 「幸区における大規模災害発生時における帰宅困難者対策のための行動ルール」の見直し
- 3 案内サインの設置
 川崎駅西口や国道1号線から一時滞在施設である幸市民館や区役所、広域避難所である御幸公園への案内サインを設置予定